



HMCは、思想・歴史・言語・文学・教育・芸術・建築・法律・政治・生活等にわたる人文学及び隣接諸分野における卓越した研究者による部局横断的な新たな研究協創のプラットフォームを目指しています。

06
2022 Summer



Humanities Center News Letters

ご挨拶

企画研究・公募研究の活動報告

イベント実施報告

新刊紹介

これから、ここから

2017年7月1日、ヒューマニティーズセンターは東京大学の連携研究機構として、株式会社LIXILおよび同会長（当時）の潮田洋一郎氏のご支援に支えられて発足しました。幸い、年を追うごとに活動は充実し、寄せられる期待も大きくなりましたが、制度にもとづく設置期限は2022年6月30日と定められていました。1年あまり前から議論を重ね、多くの方々の意見に耳を傾けた上で、この活動には継続する価値があり、私たちにはその責任があると考えました。そして2022年7月1日、ヒューマニティーズセンターは、人文社会系研究科を主管部局とし、法学政治学研究科、総合文化研究科、教育学研究科、情報学環、東洋文化研究所、史料編纂所、附属図書館による連携研究機構として、再び出発する日を迎えました。

この5年間の活動を通じて、私たちは、ヒューマニティーズが、学術としての人文学にとどまらず、社会のさまざまな人々が交わるプラットフォームの役割を備えつつあることを実感しています。何かを見出し、歓び、伝える、という人としてのシンプルな原点がそこにはあります。これからも、「潮田ヒューマニティーズイニシアティブ」による研究支援、「ヒューマニティーズリエゾン」による研究企画によって、大学の内外を問わず、「つながる人文学」のための試みをさらに進めてまいります。

ここから、また新たなヒューマニティーズセンターが始まります。どうぞよろしくお願いたします。

2022年7月1日

東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター

機構長 齋藤 希史

ヒューマニティーズセンター（HMC）とは

人文学及び隣接諸分野における卓越した研究者により、部局横断的に新たな研究協創のプラットフォームを目指す連携研究機構。

その対象は思想・歴史・言語・文学・教育・芸術・建築・法律・政治・生活等、広範に及びます。



HMCは7月から新たなステージに入ります！

HMCは2017年7月、株式会社LIXILグループおよび潮田洋一郎氏の財政的支援により設立され、「公募研究」「企画研究」を中心に活動してきました。

設立から6年目となる今夏、HMCは新たなステージに入ります。

Ushioda Humanities Initiative (潮田ヒューマニティーズイニシアティブ)

潮田洋一郎氏の財政的支援によりHMCで展開される、新たな国際人文研究拠点。連携研究者はフェロー（兼務教員）として HMCに所属。

公募研究：個人研究者の海外連携等を支援
協働研究：部局横断型の研究を推進

Humanities Liaison (ヒューマニティーズリエゾン)

研究支援人材（URA）を配置し、既存の枠組みを脱してより広範に研究活動を展開していくことを目指します。

オープンセミナー、リエゾントーク、ブックレットを通じて、研究成果を発信

今後のHMCにどうぞご期待ください！



ヒューマニティーズセンター
Humanities Center

ロゴの四角形は「情報」を表しています。また濃色のオレンジの四角形は「熟成した知識」を示します。各連携部局が連なり、情報を共有しながら、熟成した知識をHMCへ集約させるという理念を表現しています。

公 募 研 究

(A) 個人研究

連携部局所属教員を対象とする公募制度を通じて、思想、歴史、文学、教育、芸術、建築、生活等にわたる人文学および隣接諸学分野に関して、国外から研究者を長期間招聘して行なわれる共同研究、または個人で行なわれる研究です。皆さまの研究にぜひご活用ください。次回の募集はHPでご案内いたします。

現在（～2022年9月）、採択中の研究は以下の13件です。〈五十音順〉

「場所を共に耕す―「故郷」を初めて知るための対話」

青山 和佳（東洋文化研究所）

「比較文学比較文化研究の理論と教育の相互作用に関する総合的検討」

今橋 映子（総合文化研究科）

「関東大震災における東大医学部外科の役割」

鈴木 晃仁（人文社会系研究科）

「オランダ東インド会社による「宮廷旅行」の比較研究―日本、マラバール、ペルシア―」

大東 敬典（史料編纂所）

「情報通信法制の標準化」

巽 智彦（法学政治学研究科）

「日本近代文学と口絵・挿絵の有機的関係に関する研究」

出口 智之（総合文化研究科）

「海保青陵の主要著作の共同注釈」

徳盛 誠（総合文化研究科）

「近代男性作家像の成立と前近代―その連続性と不連続性」

永井 久美子（総合文化研究科）

「デジタル技術を用いた文化資源の多次元アノテーションの研究」

中村 雄祐（人文社会系研究科）

「体言化の言語類型論：性、数、類別詞および定性を中心に」

長屋 尚典（人文社会系研究科）

「人間、言語、場所：ジャック・ラカンの精神分析思想」

原 和之（総合文化研究科）

「明治後期における報道表現の変容」

前島 志保（総合文化研究科）

「アジアの都市空間における郷愁の表出と文化遺産の創出：東京とシンガポールの事例を中心に」

松田 陽（人文社会系研究科）

(B)
国際研究
集会
開催助成

日本国外の学術機関に所属する研究者を招聘し、国内で開催される人文学および隣接諸学分野（思想、歴史、文学、教育、芸術、建築、生活等）の国際研究集会を支援する事業です。

2022年6月に下記のシンポジウムが開催されました。

The Indian Ocean, 1600-1800: Exploring the Frontier of Maritime History in Japan (Part II)

17-18世紀のインド洋 —日本をめぐる海域史研究の広がりのために— (パートII)

2022年6月24日 (Zoomオンライン開催)

Chaired by: Travis Seifman

Introduction: Fuyuko Matsukata

Norifumi Daito

“Rethinking the Dutch Decline in the Persian Gulf: An Analysis of VOC Shipping Lists”

Discussant: Makoto Okamoto

Martha Chaiklin

“Ivory in the Bay of Bengal”

Discussant: Miki Sakuraba

General Discussion

Closing Remark: Fuyuko Matsukata

【主催】 東京大学史料編纂所共同利用共同研究拠点特定共同研究（海外史料領域）「本所所蔵在外日本関係史料の多角的利用のための翻訳研究」（モンsoon-II）

【共催】 東京大学史料編纂所・東京大学ヒューマニティーズセンター・維新史料研究国際ハブ拠点



企 画 研 究

HMCの立案による3～4年で行う共同研究。2022年6月で下記の研究が期間終了を迎えました。今後、「企画研究」は新たなかたちで継続発展させるべく鋭意準備中です。

大江健三郎氏寄託資料に関する基礎的研究

研究代表：安藤 宏（人文社会系研究科）

参画教員：唐沢 かおり（人文社会系研究科）、塚本 昌則（人文社会系研究科）

阿部 公彦（人文社会系研究科）、阿部 賢一（人文社会系研究科）

大向 一輝（人文社会系研究科）、村上 克尚（総合文化研究科）

武田 将明（総合文化研究科）、和田 真生（HMC特任研究員）

2021年1月に人文社会系研究科に寄託された、大江健三郎氏の自筆原稿の整理、データベース化を進め、研究基盤を構築する基礎的研究。近年進展しつつある文学者の自筆原稿に関する資料整備の流れに沿い、今後の草稿研究に新たな可能性を提起します。

直筆資料18,000枚の整理、画像データ化、追加寄贈された関連資料の整理が順調に進行。4月にはオープンセミナーが開催され学界内外から反響がありました。

現代作家アーカイヴの構築と発信

研究代表：武田 将明（総合文化研究科）

参画教員：阿部 公彦（人文社会系研究科）、佐藤 麻貴（総合文化研究科）

梶谷 真司（総合文化研究科）

中里 晋三（HMC特任研究員）

現代の日本語文学を代表する作家の生の声を記録に残し、国内外の多くの人々に現代日本文学の意義を伝えることを目的として、構築される「現代作家アーカイヴ」。飯田橋文学会(平野啓一郎氏他)とのコラボレーションで、現在活躍中の作家が自身の創作活動について語る文学インタビューを実施。第24回(3月9日)では作家・川上弘美氏、第25回(6月27日)では詩人・吉増剛造氏をゲストに招き公開収録が行われました。



行動する人の歴史：力はどこからくるか

研究代表：松方 冬子（史料編纂所）

参画教員：稲田 奈津子（史料編纂所）、三枝 暁子（人文社会系研究科）

永井 久美子（総合文化研究科）、井坂 理穂（総合文化研究科）

後藤 春美（総合文化研究科）、水野 博太（HMC特任助教）

個人が次の一歩を踏み出す際に、先人がどうやって生き、変化に対応してきたのかを参考にできるように、歴史を「動詞」から捉えるという全く新しい歴史の語りの構築を目指す企画研究。

1月には、オープンセミナー「語る力が権力を作る？—歴史からの問い—」を収録したブックレットが刊行されました。

ヒューマニティーズリエゾン部門研究プロジェクト

「アジアの未来」研究プロジェクト

研究代表：松田 陽（人文社会系研究科）

参画教員：菅 豊（東洋文化研究所）、本田 洋（人文社会系研究科）

祐成 保志（人文社会系研究科）

参画学生：リー・カーファイ（人文社会系研究科）

今日のアジアの都市においてどのような種類・性質の過去が郷愁の対象となり、そのことによっていかなる社会的変化が生じているかを考査する研究。現在のアジアの都市における過去の位置付けを探ることを通して、アジアの都市の未来を考えようという試みです。

3月に、東京都内の各所に見られる“ノスタルジア”を撮影した動画を公開、それをもとに研究会を行いました。今後も、アジアの各都市を対象を広げ研究を継続予定。



プロジェクトで制作した映像
「東京ノスタルジアの考察」より

オープンセミナー

公募研究、企画研究に参画しているフェローを中心に随時セミナーを開催しています。一般公開形式、参加費は無料です。最新の知見に触れられる機会をお見逃しなく！



■ 第50回 2022年1月7日

Recent shifts in the UN's Approach to Accountability for Misconduct and Sexual Exploitation and Abuse

不法行為および性的暴力・搾取のアカウンタビリティに関する国連のアプローチの変化

Ai Kihara-Hunt (Associate Professor, the University of Tokyo) / キハラハント 愛 (東京大学大学院 教授)

Roisin Burke (Assistant Professor [Public International Law], Utrecht University) / ロシーン・ブルケ (ユトレヒト大学 准教授)

Maria Fernanda Perez Solla (Senior Victims' Rights Officer, United Nations, Multidimensional Integrated Stabilization Mission in the Central African Republic [MINUSCA]) / マリア・フェルナンダ・ペレツ・ソッラ (国連中央アフリカ多面的統合安定化ミッション)

Assistant Secretary-General Jane Connors (Victims' Rights Advocate, the United Nations) / ジェーン・コナーズ (国連事務次長補)



■ 第51回 2022年1月21日

木版口絵の世界——口絵との出会い

朝日 智雄 (木版口絵コレクター)

企画者・司会・ディスカッサント：出口 智之 (東京大学総合文化研究科 准教授)



■ 第52回 2022年1月28日

『瑜伽師地論』の伝承について

高橋 晃一（東京大学大学院人文社会系研究科 准教授）



■ 第53回 2022年2月11日

東アジアの「開発」と「発展」——日・中・韓の開発研究を比較する——

佐藤 仁（東京大学東洋文化研究所 教授）

キム・ソヤン（韓国・西江大学東アジア研究所 准教授）

汪 牧耘（東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士課程）



■ 第54回 2022年2月18日

“come”が「来る」でない時、「来る」が“来 lái”でない時

When come is not *kuru* (来る) : When *kuru* (来る) is not *lái* (来)

中澤 恒子（東京大学大学院総合文化研究科 教授）



■ 第55回 2022年2月25日

作家の身体と新聞報道——三島由紀夫の例から考える

永井 久美子（東京大学大学院総合文化研究科 准教授）

ディスカッサント：南 相旭（韓国・仁川大学校）



■ 第56回 2022年3月4日

「見る雑誌」の誕生——近代日本における雑誌写真の展開と『主婦之友』の写真表現

前島 志保（東京大学大学院総合文化研究科 教授）



■ 第57回 2022年3月11日

関東大震災と東大医学部第二外科

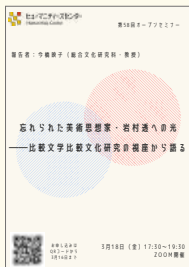
鈴木 晃仁（東京大学大学院人文社会系研究科死生学 教授）

「関東大震災の外科カルテ：患者と医師とドイツ語カルテ」

鈴木 淳（東京大学大学院人文社会系研究科日本史学・教授）

「震災負傷者救護の展開と東京帝国大学附属医院の役割」

ブックレット
近刊予定



■ 第58回 2022年3月18日

忘れられた美術思想家・岩村透への光

——比較文学比較文化研究の視座から語る

今橋 映子（東京大学大学院総合文化研究科 教授）

「ほとんど0円大学」
(hotozero.com)で、
セミナーのレポートが
ご覧いただけます



■ 第59回 2022年3月25日

場所を共に耕す(Cultivating a Place Together)

—ホーム／ミンダナオを知るための旅

青山 和佳（東京大学東洋文化研究所 教授）

岸 健太（秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科 教授、建築家）

第1部：プロジェクト・ドキュメンテーション（青山）

第2部：ホームを旅する（岸+青山）

ブックレット
近刊予定



■ 第60回 2022年4月1日

法の国際的な平準化——個人情報保護を素材にして

巽 智彦（東京大学法学部・大学院法学政治学研究所 准教授）



■ 第61回 2022年4月9日

中国「第三世界論」の思想的体質：1974年鄧小平の国連総会演説を手がかりとして

中国“第三世界论”的思想体质——以1974年邓小平联合国大会的讲话为聚焦分析线索

賀 照田（中国社会科学院文学研究所 研究员）

コメンテーター：村田 雄二郎（同志社大学グローバル・スタディーズ研究科 教授）

司会：鈴木 将久（東京大学人文社会系研究科 教授）



■ 第62回 2022年4月15日

ジャック・ラカンによる「人間」

原 和之（東京大学大学院総合文化研究科 教授）

ディスカッサント：松本 卓也（京都大学大学院人間・環境学研究所 准教授）



■ 第63回 2022年4月22日

大江健三郎氏寄託資料の現在と未来

村上 克尚（東京大学大学院総合文化研究科 准教授）

「原稿から新たな読みの可能性へ——「空の怪物アグイー」を例として」

阿部 賢一（東京大学大学院人文社会系研究科 准教授）

「森昭夫氏の寄贈資料について」

大向 一輝（東京大学大学院人文社会系研究科 准教授）

「人文学におけるデータ共有の可能性」

司会：安藤 宏（東京大学大学院人文社会系研究科 教授）



■ 第64回 2022年5月13日

無我と慈悲—唯識思想の観点から—

高橋 晃一 (東京大学大学院人文社会系研究科 准教授)



■ 第65回 2022年5月20日

Mobilisations of nostalgia in Singapore and Tokyo

シンガポールと東京に見るノスタルジアの表出と文化遺産の創出

Dr Imran bin Tajudeen (National University of Singapore / イムラン・ビン・タジュディーン (シンガポール国立大学))

'Kampung nostalgia and heritageisation in Singapore'

Lee Kah Hui (University of Tokyo, Graduate School of Humanities and Sociology) / リー・カーフイ (東京大学大学院人文社会系研究科 博士課程)

'Showa nostalgia and placemaking in Tokyo'

Moderator: Akira Matsuda (University of Tokyo, Graduate School of Humanities and Sociology / 松田 陽 (東京大学大学院人文社会系研究科 准教授))



■ 第66回 2022年5月24日

The Open Multilingual Wordnet

Francis Bond / フランシス・ボンド (Palacký University, Extraordinary Professor / パラツキー大学 特命教授)

Commentator: Tsuneaki Kato (The University of Tokyo Graduate School of Arts and Sciences, Professor / 加藤 恒昭 (東京大学大学院総合文化研究科 教授))



■ 第67回 2022年5月26日

Japan and the Netherlands 日本とオランダ

Lennart Bes (Leiden University) / レナルト・ベス (ライデン大学)

'Working together on the history of cross-cultural diplomacy'

Jinna Smit (Embassy of the Kingdom of the Netherlands) / ジンナ・スミット (オランダ大使館)

'Working together on heritage'

Chaired by: Norifumi Daito (University of Tokyo, Historiographical Institute) / 大東 敬典 (東京大学史料編纂所)



■ 第68回 2022年5月27日

デジタル技術を用いた文化資源の多次元アノテーションの研究 — プロGRESS・リポート

中村 雄祐 (東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学専攻教授)

大向 一輝 (東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター / 文化資源学専攻准教授)

小川 潤 (人文学オープンデータ共同利用センター特任研究員)

笠原 真理子 (東京大学ヒューマニティーズセンター特任研究員)



■ 第69回 2022年6月3日

黄東の国との契約書—東アジアの買地券—

王 海燕 (東京大学史料編纂所 外国人研究員 / 浙江大学歴史学院 教授)

「中国の買地券—呉越地域の事例を中心に—」

稲田 奈津子 (東京大学史料編纂所 准教授)

「朝鮮と日本の買地券」

共催：科学研究費基盤研究 (C) 「東アジア墓葬文化の伝播と展開—金石文資料の形態的分析を中心に—」 (研究代表者：稲田 奈津子)



■ 第70回 2022年6月9日

社会調査史のなかの「質的データ分析の方法論的諸問題」: 見田宗介の問いかけ

佐藤 健二 (東京大学未来ビジョン研究センター特任教授 / 執行役副学長)

ディスカッサント:

祐成 保志 (東京大学大学院人文社会系研究科 准教授)

瀧川 裕貴 (東京大学大学院人文社会系研究科 准教授)

共催：東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 社会学研究室

リエゾントーク

「つながる人文学」をテーマに、HMCスタッフが企画・運営する学術的討論の場として、4月から「リエゾントーク」が新たにスタート。

第1回と第2回は「香り」をテーマに、文学&オペラの「表現」、教会&芝居小屋の「空間」の二つのパートに分かれて、HMCスタッフが連続トークを行いました。次回のリエゾントークの準備も進行中です。どうぞご期待ください。



■ 第1回 2022年4月22日

香りと人文学① 表現

祝 世潔 (HMC特任研究員)

「文学テキストのなかの香り—ジュースキントの『香水』をめぐる」

笠原 真理子 (HMC特任研究員)

「19世紀後半フランス・オペラの香り—女性・聖性・花」

ディスカッサント：出 佳奈子 (弘前大学人文社会・教育学系 准教授)



■ 第2回 2022年4月28日

香りと人文学② 空間

太田 泉フロランス (東京大学大学院人文社会系研究科 助教)

「中世ヨーロッパの聖堂と香り」

和田 真生 (HMC特任研究員)

「芝居小屋の匂い、劇場の衛生」

ディスカッサント：松崎 照明 (東京家政学院大学 客員教授)



第1回は出先生、第2回は松崎先生をディスカッサントにお迎えました。参加者の皆さまからも多くのご質問をいただき、時間の都合上すべてにお答えすることはできませんでしたが、論文にまとめる際の参考にさせていただきます！



(当日の配信画面より)

HMC Booklet シリーズ

HMCでは、人文学及び隣接諸分野に関する新たな研究協創を目指した「Humanities Center Booklet シリーズ」を刊行しています。東京大学学術機関リポジトリUtokyo Repositoryで公開中。東京大学総合図書館、駒場図書館でもご覧いただけますので、ぜひお手にとってみてください。

ダウンロードは
こちらから▶



新刊



Vol.13

語る力が権力を作る？—歴史からの問い—

松方 冬子、水野 博太、後藤 春美、井坂 理穂

2022年3月20日発行



Vol.14

〈哲学×デザイン〉プロジェクト—コラボレーションの記録

梶谷 真司、佐藤 麻貴、中里 晋三、八幡 さくら、山野 弘樹、渡邊 京一郎

2022年3月25日発行



Vol.15

秦の淵源 秦文化研究の最前線

鈴木 舞、飯島 武次、焦 南峰、梁 雲、角道 亮介、大日方 一郎、曹 龍、菊地 大樹、平勢 隆郎

2022年3月30日発行



Vol.16

Royal Letters, Imperial Documents: A Japanese, Korean and Thai Triologue for a Global History of Inter-State Relations

MATSUKATA Fuyuko, Bhawan Ruangsilp, Dhiravat na Pombejra, JUNG Donghun, KOO Bumjin

Edited by MATSUKATA Fuyuko

2022年6月30日発行

Staff 雑感

準備に1年かけたりエソントークがようやく終わり、少しほっとしています……が、論文化に向けてもう一度資料を読み直します。お蔭様で、Twitterのフォロワー数が870人を超えました。新しく始まる「協働研究」もお楽しみに！ (笠原 真理子)

セミナーや協働研究の参与によって、一見他分野の研究からも大きな啓発を受けました。やはり人文学は繋がっているものだと実感しました。HMCは7月から再出発し、より豊かな人文学研究を発信いたします。引き続きご注目を！ (祝 世潔)

昨年来、駒場キャンパスに足場を置きながらヒューマニティーズセンターのスタッフをしてまいりましたが、7月からの新たな船出に引き続き関わられることに大きな喜びを抱いております。どうぞよろしく願いたします。 (中里 晋三)

オープンセミナーも5年間で70回に達しました。東京大学の人文学の深さを覗き見ると同時に、毎回のゲストやディスカッサントを通じて、その広がりを知ることのできる機会でもあります。興味の近い回があれば、ぜひご参加ください。 (水野 博太)

半年に一度発行しているニュースレターですが、掲載するイベントのなんと豊富なこと。増頁号になりました。フェローの先生方により多岐にわたる研究が進められていること、そして各回のイベントに多くの方が参加してくださることに感謝。 (和田 真生・編集)

東京大学ヒューマニティーズセンター (HMC)

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学総合図書館4階
ヒューマニティーズセンター事務局



<https://hmc.u-tokyo.ac.jp>



https://twitter.com/HMC_UTokyo



<https://www.facebook.com/HMC.UTokyo>